令和８年「落花生」生育情報（第４報）

令和8年１１月１１日
千葉県農林水産部
生　産　振　興　課

※本資料は、落花生生産者へ落花生の生育情報を提供するものです。
調査地点で収穫状況をまとめたものであり、県内全域の収量を保証するものではありません。

１　令和８年産落花生の作柄

１）生育概況

５月下旬～６月上旬は台風等の影響により、は種作業が遅延し出芽も遅れました。

６月～７月上旬は、平均気温や日照時間が平年を下回る日が多く、平年より開花期が遅れました。７月中下旬～８月上旬は降雨が少なく、平年よりも高温となりました。着莢から莢の充実期がかん水不足により干ばつとなったほ場（５月中旬から６月中旬は種）では、子実肥大に影響があり、未熟粒の発生や空さやの発生が見られました。

８月中旬～９月は豪雨や台風等により、降水量が非常に多くなり、冠水等の被害が一部で発生しました 。特に９月は、日照時間が平年を大きく下回りました。

多くのほ場では、品種を問わず、乾燥さや実重が平年と比べて少なくなりました（表１及び表２）。

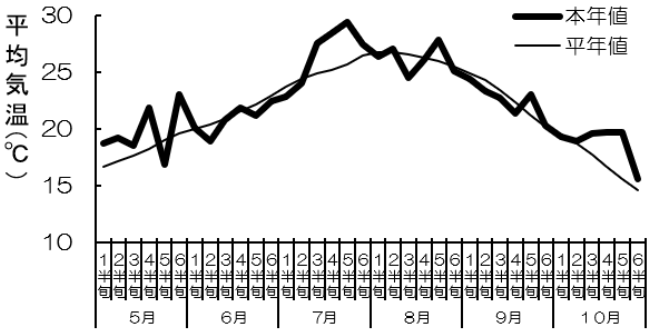


図1　半旬別平均気温（アメダス佐倉）

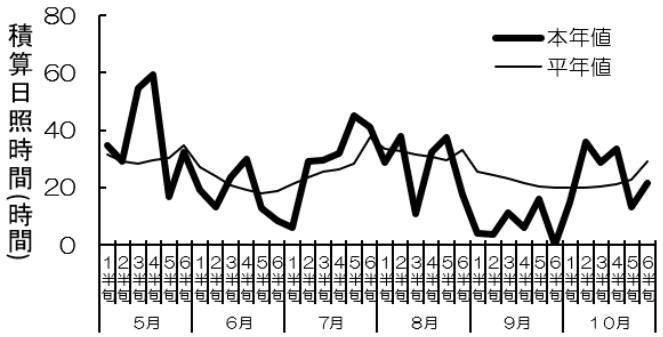


図2　半旬日照時間（アメダス佐倉）

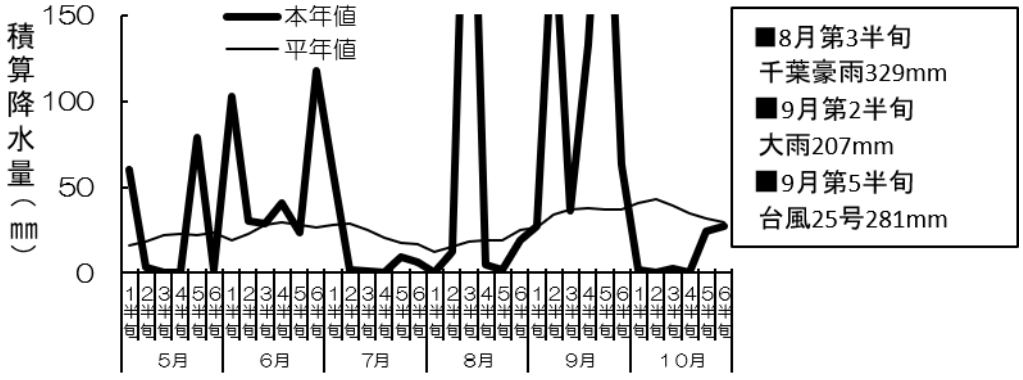


図3　半旬別降水量（アメダス佐倉）

表１　落花生収穫時調査結果（調査用のサンプルは、収穫後、乾燥機で通風乾燥させた）

品 種 名	年次	は種日	開花期	収穫日	さや実数（個/㎡）	乾燥さや実重（ｇ/㎡）	上さや重（ｇ/㎡）	全粒重（ｇ/㎡）	上実重（ｇ/㎡）	むき実歩合（%）	上中実百粒重（ｇ）
千葉半立	本年	5/28	7/8	10/5	210	325	219	222	162	68	90
	平年	5/29	7/7	10/3	186	303	205	202	144	67	80
					(113%)	(107%)	(107%)	(110%)	(113%)		
ナカテユタカ	本年	5/28	7/6	9/18	214	283	135	193	112	68	89
	平年	5/21	6/29	9/13	229	417	314	300	245	72	89
					(93%)	(68%)	(43%)	(64%)	(46%)		
Ｑなっつ	本年	5/25	7/6	9/21	237	326	163	219	133	67	89
	平年	6/1	7/7	9/22	207	393	309	277	221	70	83
					(115%)	(83%)	(53%)	(79%)	(60%)		
おおまさりネオ	本年	5/27	7/6	9/29	218	289	117	171	105	59	76
	平年	5/21	6/30	9/23	151	359	232	223	160	62	110
					(145%)	(81%)	(51%)	(76%)	(65%)		

＊本年値は、各調査地点の平均値。「千葉半立」は千葉・印旛・香取・山武地区、「ナカテユタカ」は千葉・海匝・長生地区、「Ｑなっつ」は印旛・香取・長生地区、「おおまさりネオ」は千葉・印旛・君津地区。

＊平年値は、ほ場変更等がない限りは過去７年間（「千葉半立」、「ナカテユタカ」、「Ｑなっつ」）の調査データから最大・最小を除く平均。ただし、「おおまさりネオ」は過去５年間の平均値。

＊カッコ内は平年値に対する比。ラウンド処理をした値。

＊上さやは２粒さや２ｇ以上、１粒さや１ｇ以上のさや（おおまさりネオは２粒さや３ｇ以上、１粒さや1.5ｇ以上のさや）

＊上実は0.7ｇ以上、中実は0.4ｇ以上0.7ｇ未満の子実（おおまさりネオの上実は0.9ｇ以上、中実は0.6ｇ以上0.9ｇ未満の子実）

表２　落花生研究室（八街市）の落花生収穫時調査結果

（調査用のサンプルは、収穫後、乾燥機で通風乾燥させた）

	品 種 名	は種日	開花期	収穫日	さや実数（個/㎡）	乾燥さや実重（ｇ/㎡）	上さや重（ｇ/㎡）	全粒重（ｇ/㎡）	上実重（ｇ/㎡）	むき実歩合（%）	上中実百粒重（ｇ）
	千葉半立	5/20	7/3	10/7	315 (102%)	284 (60%)	71 (24%)	180 (58%)	69 (35%)	63	66
標	ナカテユタカ	5/20	7/1	9/18	309 (115%)	306 (71%)	87 (30%)	190 (65%)	64 (30%)	62	63
播	Ｑなっつ	5/20	7/3	9/23	266 (95%)	291 (68%)	99 (36%)	178 (64%)	78 (43%)	61	70
	おおまさりネオ	5/20	7/1	9/28	269 (148%)	270 (72%)	33 (20%)	139 (64%)	32 (28%)	51	83
	千葉半立	6/11	7/15	10/19	283 (94%)	326 (61%)	111 (28%)	225 (61%)	115 (41%)	69	71
晩	ナカテユタカ	6/11	7/15	10/2	239 (88%)	293 (60%)	105 (29%)	206 (67%)	102 (37%)	70	69
播	Ｑなっつ	6/11	7/16	10/5	255 (97%)	321 (69%)	126 (36%)	220 (68%)	129 (51%)	69	72
	おおまさりネオ	6/11	7/15	10/13	226 (121%)	335 (71%)	95 (37%)	212 (73%)	99 (49%)	63	94

＊栽植密度は5,128株/10ａ、無かん水条件

＊上さやは２粒さや２ｇ以上、１粒さや１ｇ以上のさや（おおまさりネオは２粒さや３ｇ以上、１粒さや1.5ｇ以上のさや）

＊上実は0.7ｇ以上、中実は0.4ｇ以上0.7ｇ未満の子実（おおまさりネオの上実は0.9ｇ以上、中実は0.6ｇ以上0.9ｇ未満の子実）

＊カッコ内は、令和３～令和７年の平均値に対する比

２　来年の栽培に向けて、優良種子を準備しましょう

開花期後３５日～５０日頃に干ばつに遭遇した場合、幼芽褐変が多く発生します。本年は、７月中旬～８月上旬の干ばつの影響を受けたほ場では、幼芽褐変症の発生が見られました（表３）。

次の写真１のような幼芽褐変が見られる場合は、出芽率が低下することがありますので、次年度の落花生栽培に向けて、種子に幼芽褐変がないか早めに確認しましょう。種子を割り、１０粒中１粒でも中度～重度の障害がある場合は、見かけがよくてもこのほ場の種子は使用しないようにしましょう。軽度の幼芽褐変が見られる場合は、種子を多めに確保してください。

また、選別の際に異型莢を除去して優良種子の確保に努めましょう。

表３　調査ほ場における幼芽褐変（中・重度）の発生率（%）

	千葉半立	ナカテユタカ	Ｑなっつ	おおまさりネオ
令和８年	２．０	３．３	０．０	８．０
平年値	３．９	３．５	２．１	４．０

＊発生率は、中度及び重度の合計から算出。平年値はR1年からR7年（過去7年間）の調査データから最大・最小を除く５か年の平均。ただし、「おおまさりネオ」はR3～R7年の平均値。

写真１　幼芽褐変症の程度別症状



健全種子



幼芽褐変 軽度
本葉が褐変
出芽率９割



幼芽褐変 中度
胚軸上部が褐変
出芽率６割



幼芽褐変 重度
本葉全部と胚軸上部が褐変
出芽率１割

３　定期的に種子の更新をしましょう

品種の特性を維持するには、種子更新が必要です。３～４年に１回程度の定期的、計画的な更新に努めましょう。